

県内でアカリダニ症の発生がありました

平成28年1月、県内1ヵ所で飼養されているニホンミツバチにおいて、アカリダニ症の発生がありました。県内での発生は平成26年の初発生以来5例目となります。

本病は、平成22年に長野県において日本で初めて発生し、その後、滋賀県、北海道、茨城県、群馬県、埼玉県など全国各地ではほぼ毎年発生が確認されています。

アカリダニ症とは

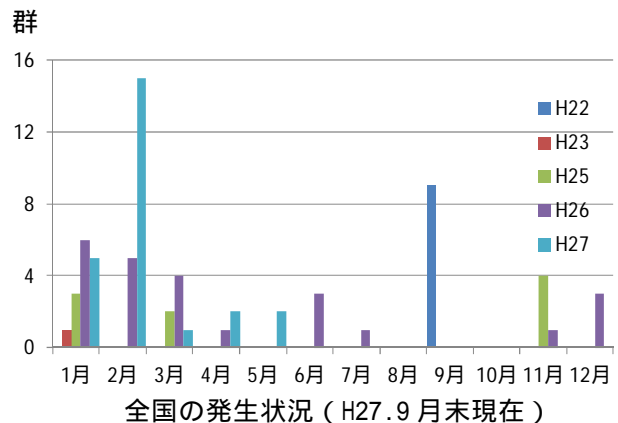
- ・アカリダニが蜜蜂（成蜂）の気管内に寄生・繁殖することにより起こる感染症
- ・監視伝染病に指定され、届出が必要
- ・冬期から早春に発生が多くみられる
- ・多くは無症状

主な症状

- ・巣箱内や出入り口の異常蜂や飛翔力のない蜂の増加
- ・寿命の短縮、死蜂の増加
- ・Kウイング、徘徊、冬期のコロニー消滅
後翅が飛び出したままの状態となり、Kの文字のようになる。
寄生個体の10%程度に見られる。

対策

- ・適切な飼養管理により冬期に蜂群を弱らせない
- ・養蜂器具を消毒することにより細菌等の二次感染防止
- ・アカリダニに寄生されていない清浄群からの導入



蜜蜂の気管内に寄生する
アカリダニ（H26 県央家保撮影）



アカリダニ症以外にも蜜蜂の病気はいろいろとあります。
異常が確認された場合は、家畜保健衛生所まで御連絡ください。